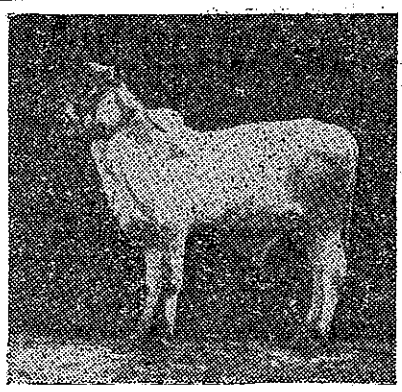
牛の依託牧場

△牧草不足を解決して、農家の手數をはぶく。

耕牛が減少している

現在、臺灣の畜產界で問題になつていることは、年ごとに耕牛（水牛、黃牛を含む）の數が減少していることです。殊に光復後は激減して居り、政府の警告にもかかはらず去年などは一萬七千頭の耕牛が屠殺されて、將來の農業問題に影響しないかと心配されています。

二年前、すなはち民國三十九年に、農林廳では農復會の援助によつて優良種の牡牛を購入し、全省三百の農會に種牛として借しつけて會員に利用させ、去年もまた農復會によつて十二頭の印度牛（カンクレージ）が輸入されていますが、これは本省耕牛の品種改良を目的としたものです。更に、劣等牡牛の去勢も奬勵して居り、去年だけで八六九五頭の牡牛が去勢されましたが、これも耕牛の品種改良が目的で、耕牛の數を增加させるには効果がありません。



新輸入のカンクレージ（農林廳西部種畜場）

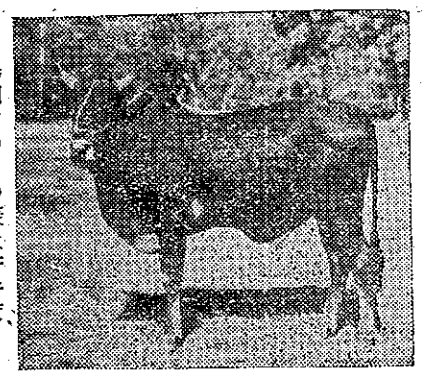
民間で耕牛を屠殺するのは、明にその肉を食ふためであるから、外國から食用牛を輸入して、それを繁殖させれば、自然に耕牛を殺す數が少くなるとなへている者もあります。然し、では輸入して來た食用牛の飼料はどうするか。製糖會社の樣に砂糖の製造に餘つたカスを飼料として使用できれば良いのですが、全省的に食用牛を多數飼ふとなると、現在の耕牛を養つている狹い牧草地帶までも食用牛に佔領される恐れがあつて、これでは耕牛を增加させる目的が達せられません。そこで現在もつとも困る問題は明に、臺灣では牧草地帶が非常に少いと云ふことです。

臺灣の耕牛が年々減少しているのは、もちろん大量の屠殺にもよりますが、牧草地帶が不足している事もその主な理由と思ひます。本省の牧草地帶と云へば、路邊とか畦間とか山上の墓場附近だけで、その牧草も他の國では見る事ができない位に短く喰ひ込まれて居り、この狀態では耕牛を增加させる餘地などとてもありません。そこで、耕牛の屠殺を制限すると共に、牧草地帶の擴大を計ることが大切で、そのために政府でも新しい計劃をたてて實行に移して居ります。

新しい計劃

右に述べた計劃の一項として、陽明山管理局とその農會では、去年から「草山」の廣大な牧草地帶を農家の耕牛に開放して、農閑期のあいだ放牧させ、責任をもつて牛を管理しています。この計劃はちようど人間の「託兒所」に似たもので耕牛依託場とも云へませう。この依託場の牧場の廣さは約四百甲歩で、周圍を石塀でかこんで居り、飲水池や牛が休息する場所もあります。

農民が耕牛を依託する農閑期は、四月一日から六月三十日までと、八月一日から十月三十一日までの二期があり、一期について少額の費用を拂へば保管してくれる事になつています。依託場では、牧夫を雇（ヤト）つて牛を監視させ、病氣の際には獸醫にも見せるなど、責任を持つて保管してくれます。そのほか、同依託場では、優良種の牡牛を購入して、農家から預（アズ）かつた牝牛と交配させて、耕牛の品種改良を行はうと云ふ計劃もしています。母牛と一諸について來た四ケ月以下の子牛は無料で依託でき、四ケ月以上一年以下の牛は半分の費用、それ以上は全額を拂ふことになつています。また、依託者の希望によつては、母牛を小牛と一諸に長期間あずける事もできれば、或は斷乳した小牛のみを成長するまで依託する事もできるはずです。



カンクレージ雜種（高雄縣田寮鄉農會）

陽明山のこの樣な耕牛依託場は、高雄縣の深水、屏東縣の鵝鑾鼻にも計劃されて居り、本省の耕牛繁殖のためには實に有意義で將來性のある計劃と思ひます。なほ、農復會では高山同胞のために、南投縣の仁愛鄉、臺東縣の達仁鄉に、規模は小さいが同じ樣な性質の牧場を計劃して居ります。臺灣では牧場地帶が少いと云つても、拽（サガ）せばまだ有るはずで、他の縣でも農會と縣政府が協力して、この種の耕牛依託場をもつと多く設置すれば、平地の牧草不足を解決できる上、更にこれによつて本省の耕牛を增加させる事も可能になると思ひます。

牧草の問題

山上の野草のなかには牧草として不適なものもありますが、これに對しては今後長期の對策をもつて、優良な牧草に變へていく必要があります。このため、省農業試驗場では農復會の補助を得て、各種の牧草を試驗中でしたが、その結果は非常に良好で、臺灣の環境に適する樣な幾種かの牧草を得る事ができました。

結言

以上に述べたことでお解りになつたと思ひますが、臺灣では恐らく食用牛を輸入する必要が無いと思ひます。食用牛は臺灣の氣候に適應できるかと云ふ事も問題で、また多くのものは耕作に使用できません。黃牛の勞働力は水牛や大きい雜種牛よりやや劣りますが、耕牛として充分に使用でき、肥つた榮養の良いものなら食用としても上等です。また將來は、臺灣の黃牛をもつと廣範圍にカンクレージ種やシンデイ種等の印度牡牛と交配させれば、非常に強力で優秀な雜種牛も得られます。

以上のことから、今後、私達の努力すべき點は、如何にして臺灣の耕牛、殊に食用にも耕作にも使用できる黃牛の質と數を增進するかが大切で、そのためには出來うるかぎり山地、高原地の牧場地帶を利用することです。さきに擧げた陽明山の耕牛依託場などはこの目的に沿つた非常に良い試みとして各縣でも擧行して頂きたく、將來は農閑期だけでなく、一年を通じて牛を依託できる樣にすれば、もつと良い結果が得られると思ひます。（農復會畜牧組組長ハンター先生）

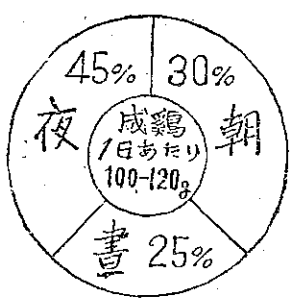
鷄の飼料

誰でも鷄を飼ふのは、幾らかでも其れによつて利益をあげようとするためです。飼料ばかり高くついて鷄が少しも大きくならなかつたり、卵を產まない樣では養鷄をしても損になります。故に、できるだけ經濟的な飼料費で、より多くの生產をあげる方法を考へなければなりません。例へば、單に米だけで飼養しても鷄は發育不良になるだけで、體にしない樣に、他の二種も不足して、補へば理想的と云へます。（下圖參照）

飼料の與へかた

飼料の配合は、幼鷄（二ケ月まで）、生長鷄（二ケ月から四ケ月半）、產卵鷄（三ケ月半）によつて配合がそれぞれの違ひます。鷄と云つても成長に要する營養量が違ふから、どんな例へば、能力の低い鷄に良い飼料を與へて、產卵を多く望むのは無理で、かへつてタン白質が多すぎます。反對に優秀な產卵鷄に營養を充分に與へないで、生產を望むことも無理です。

飼料には、粉餌、粒餌、練餌、の三種に分けられます。粉餌とは粉ツにしないで穀類をそのまま與へることですが、穀類のうちにはタン白質の含有量が少いものがあります。粒餌とは穀類を混ぜて與へる方法です。然しこれでは何種類も飼ふ場合の飼料配合表を左にかかげておきました。また、粉餌と粒餌（粉にしないで粒のまま與へる穀類）とをまぜて與へる時には、玉蜀黍（トウモロコシ）と小麥を半々に混ぜて與へます。



練餌（ネリエ）

練餌は粉餌を材料として、これに水または魚汁などを加へて練つたものです（上圖參照）。練餌の中には、綠餌を混ぜて與へるのもよく、綠餌は木炭粉とか肝油そのほかの效果が強壯劑を混ぜるとも效果があります。なほ、練餌は腐敗しやすいから、必要に應じて造るべきです。いずれも單獨で用ひないで、適宜に、併せて與へる方法は、鷄の好むようにしなければなりません。飼料の與へる回數は一回の分量を少くして回數を多くする方が良いのです。成鷄なら一日に三四回、雛（ヒナ）は初めは六七回、次第に回數を減らして三ケ月頃で三四回にします。

鷄飼料配合表

（左の數字はパーセントを表す）

時期＼飼料種類	トウモロコシ	フスマ	豆餅	花生餅	魚粉	骨粉	貝粉	食鹽	米糠	魚肝油
幼鷄（二個月以內）	四七	一〇	一四	七	五	三	三	一	六七	〇三
生長鷄（二個月—四、五個月）	三三	一〇	一三	一〇	七	三	三	一	一〇	〇三
生卵鷄、種用鷄	四八	一〇	一四	三	八	三	三	一	一	〇三

農業ニュース

保溫折衷苗代

寒い地方の苗代作りは實に困難です。苗ぐされが出てしまうし、つい腐つて種籾は根張りが惡い芽を出したり、あるいは蟲やミミズが根をかじつたりして、ひどい時は根こそぎ持ちあげたり、折角の苗代を鳥たちに荒らされてしまうこともあります。

折衷苗代の方法は簡單で、問題を日本で解決した保溫折衷苗代の方法は、一九四九年の全國の面積は三十萬坪であつたのが、一九五一年には一千五百萬坪に廣まりました。この保溫折衷苗代は、日本の稻作の後は普及の一歩を辿つてゐます。

（油紙を苗代に被せている所）

黃金百合

ユリは中國、日本、米國、英國、ドイツ、ロシヤ、ルーマニヤ、ブルガリヤ、ハンガリヤ、ユーゴスラビヤ、ポーランド、ブルガリヤ、ルーマニ